

ワケ カタチには理由がある(70)

Shape follows
Function & Taste

～フォッカー(Fokker) D.XXI(21)



本機フォッカーD.XXIは、第一次大戦後、オランダに本拠を置いたフォッカー社が製造した戦闘機です。初飛行は1936年ですから、日本海軍の96艦上戦闘機より少し遅れて登場した機体です。36機が配備され、ドイツ軍の侵攻時にはBf109Eの撃墜記録もあるようですが、大きな活躍をすることなく敗北しました。どこかのんびりとした外観ですから、この戦闘結果もうなずけます。しかし、本機は、オランダ本国ではなくフィンランドの戦いにおいて航空史に名を残しました。フィンランドは本機を7機輸入しただけでなく、国内で93機も生産し、1939年から翌年のソ連との戦いにおいて本機は善戦します。ソ連軍が未だI-153やI-16といった旧式機が中心だったからでしょうが、鋼管フレームに布張り、固定脚という堅実な構造が、北の国の戦闘環境に馴染んだからでしょう。

【模型について】

チェコのMPM(スペシャルホビーの前身)製の1/72インジェクションキットです。簡易インジェクションメーカーからスタートした同社でしたが、これは後期のキットで、パーツのモールドもしっかりし、キャノピーも塩ビからインジェクションに変わって、工作自体は円滑でした。ただ、3色迷彩のハードルは高く、また、国籍マークのオレンジも塗装したため、完成させるのに四苦八苦した覚えがあります。

(中川裕幸 2022年8月)